

第4章 評価の結果

国土技術政策総合研究所研究評価委員会評価結果

本評価結果は、平成13年度第1回国土技術政策総合研究所研究評価委員会における審議とその後各委員から提出されたメモに基づき、評価の視点1、2、3に沿って、とりまとめたものである。

平成13年7月30日

国土技術政策総合研究所研究評価委員会

委員長 虫明功臣

評価の視点1：研究方針が、時代の潮流を踏まえ社会的要請に応え得る内容であるか。
(全体)

国総研の使命として「国民一人一人の満足度を高めるため」と謳った点は、時代の潮流を踏まえ社会的要請に応える研究姿勢として評価できる。そうした使命感に沿って提案された研究方針、すなわち7本の柱と16の技術政策課題は、従来の要素研究を越えた総合的な視点を有するものであり、新生国総研の研究方針として高く評価できる。

ただし、以下の点について、配慮されたい。

- ・「はじめに」に記された「概ね5年間を展望した研究方針」は、サブテーマに掲げられた研究内容に関するものであり、方針の性格を明確するため、その点をことわった方がよい。
- ・全体構成に関して、「3 重点的に取り組む研究課題」は非常に重要なものであることから、4～7を「研究の進め方」でまとめた方が3とのバランスがよい。

評価の視点2：国の機関が果たすべき役割からみて、重点的に取り組む研究課題の設定が適切に整理されているか。
(第1編の3及び第2編)

重点的に取り組む研究課題、すなわち7本の柱と16の技術政策課題全体の構成は適切である。

ただし、以下の点について、配慮されたい。

- ・7本の柱と16の技術政策課題は、きれいに分類されすぎている感があるので、具体的な研究にあたり複数の柱あるいは技術政策課題に跨る課題については、それぞれに重複してカウントすることを許容し欠落の無いように注意したほうがよい。

- ・ 7本の柱の「5. 建設マネジメント手法の向上」というタイトルは、政策及び事業評価制度を含むには範囲が狭いので、変更した方がよい。
- ・ 技術政策課題①では、国土計画全体を俯瞰するビジョンを打ち立てて欲しい。
- ・ 国際に競争力のある大都市の再生に必要な基盤整備の観点に立った課題があった方がよい。

評価の視点3：研究の進め方に関する方針が、国の研究機関として適切であるか。

(第1編の4～7)

研究の進め方に関する方針は、広い視点で検討されており、全体として評価できる。ただし、以下の点に配慮して、今後の研究を進められたい。

○研究活動の進め方について

- ・ 「国土管理データベースの構築」は、国の研究機関の役割としてきわめて重要である。個々のサブテーマを研究する中でデータが蓄積されるシステムを構築するとともに、「広く公表」することを方針として明示すべきである。
- ・ 自ら技術開発を行うだけでなく、民間の技術を評価する手法の開発をも重視すべきである。
- ・ 国際協力では相手方の技術力・経済力に配慮するとともに、マニュアル等の英文化が大切である。
- ・ 他機関との連携において、専門家集団だけでなく、NPO/NGO等との広い連携も必要である。また、国総研だけでなく、国全体の技術レベルが高まるような配慮が必要であり、関連して知的所有権の帰属の考え方についても検討すべきである。

○研究者の育成について

- ・ 研究者の育成においては、プロジェクト研究の中で基礎的な研究能力を高める機会を与えることが必要であり、その中で積極的に学位を取得できる環境を整えるなどの配慮が必要である。
- ・ 国総研のなかで人材の育成を図ることばかりでなく、プロジェクトごとに多様な人材を独立行政法人や他の研究機関から集めるなど、人材の流動化も考慮する必要がある。

○研究成果の発信について

- ・ 可能な限り報告書全文がホームページから取得できるよう、知的所有権の問題等についての検討をして欲しい。
- ・ 科学離れの時代、次世代を担う子供達へのアピールに力を入れるべきである。